

あけまして おめでとーございます



下田市議会議長
森 温繁



下田市長
楠山 俊介

市民の皆様には輝かしい新春を健やかに迎えたいと心からお慶び申し上げます。旧年中は、市政に対しご理解とご協力を賜り、心から深く感謝申し上げます。本年は「申年」ですので「猿にまつわる諺を見ますと「猿も木から落ちる」「見ざる聞かざる言わざる」など「戒め」の言葉が多く、その意をしっかりと受け止め、市政を運営していく決意をいたしました。「猿は馬の守護神」とのことですので、午年の私としては本年の良縁を予感し、市政の順風満帆と、まちづくりの拠点として、利便性のある安心安全な新庁舎建設を推進いたします。

少子高齢化、人口減少により「縮小社会」が到来し、削減可能性都市として「このままでは896の自治体が消滅しかねない」との表現がされ、下田市もその一つです。しかし、縮小イコール消滅ではありません。「このままでは」の意味を理解した手立が求められています。そのためには「より小さく

再成長する都市」として、環境を改善し、生活の質を向上できれば、それは立派に都市が成長し発展しているとの理念が必要です。「大きいことはいいことだ」との巨大信仰、都市拡大論は訂正の時期を迎えました。各分野、各産業、各地域で「量より質による豊かさ」を本気で考える時代になりました。

しかし、人口増は社会に活力を与え、望むものであり、その対応は進めなければなりません。その重要な施策は、経済活性化、起業、雇用の創出です。「観光」は当市の中核産業、総合産業、地場産業であり、まちづくりそのものです。観光振興の原点は「経済的効果を上げ、地域を豊かにすること」だと考えます。多くの観光客に訪れたとき「いつ来ても、何度来ても」楽しい観光地としての精度を上げ「また来たい、もつと居たい」の思いを与え、観光客や多地域居住者など交流人口を拡大することで、人口減少の悪影響を緩和し、地域を活性化することができま

その結果、都市圏からの移住を促すことになり、定住に繋げるためには「暮らしやすいまちづくり」が必要です。この理念が「暮らしやすい人も訪れる人も快適なまち「快国」しもだ」であり、その具現化が「下田市観光まちづくり推進計画」であり「地方創生・下田市版総合戦略」の実践です。

自治体が単独で「フルセツトの行政」を執行することが困難になりました。「コンパクト&ネットワーク」を理念とし自治体間の水平的連携や県との垂直的連携によって、行政サービスを提供することが求められています。また、産官学金労言の連携や住民参加・住民協働による「まちの魅力づくり」が重要です。「美しい伊豆創造センター」「賀茂地域広域連携会議」「伊豆半島重点道の駅ネットワーク」「伊豆半島ジオパーク」等々「新たな連携」が進んでいます。下田・賀茂地域での連携において当市の役割・責任は重大です。しっかりと担っていかねばならないと考えます。

～白浜大浜～